

秋の朝倉と初めての農作業

昨年の思い出を振り返りつつ、朝倉での生活も二年目に入りました。
先日彼岸花を見た際、「あー、もう秋だなあ」と思ったのですが、そんな自分にとても驚きました。日本の人々は季節の移ろいにとても敏感ですが、これは世界的に見ると珍しいことです。

中東北アフリカ（英語では頭文字を取ってMENAと言います）地域の他の国々同様、私の母国チュニジアでは、季節を彩る植物や花の名前を気にすることはほとんどありません。季節の果物や野菜の名前はよく知られていますが、植物、動物、虫についての知識は限られているのです。

チュニジアでは小中高とライティングの授業において、感情を表現したり意見を述べたりすることに重きが置かれてるため、そのための語彙力は伸びるのですが、自然のものの名前などの語彙はあまり増えません。日本で、とりわけ朝倉に来てから、こうした違いに気づけるようになりました。今では季節の変化に敏感になりましたし、季節の植物やものの名前も分かるようになってきました。ものの成り立ちや有用性、特性を学ぶことで、日々の生活に根ざしたスキルが身についてきたように思います。



最近、朝倉に住んでいる外国人向けに日本語教室をされている原田さんにご紹介頂き、仕事の一貫として農作業に取り組み始めました。ベストな環境に整えられたハウスの中でどのようにトマトを育てるか学んでいます。まだまだ最初の一步を踏み出したばかりですが、とってもワクワクしています！これまでたくさん誤解していましたが、農業には知識や体力、そして技術力が必要だということも知りました。植物が育つためにはそれぞれ異なる条件が必要で、バクテリアから守るためには多くの知識と忍耐力が必要なのです。私の師匠である飯田さんは質の高い農産物を作るために最先端の技術を使われています。飯田さんのこれまでの努力とその知見を教えて頂けることに感謝しています！これからもがんばります！